

| 該当学年 | 授 業 科 目 名 | 担 当 教 員 | |
|---|-------------|---------|---------------------|
| 2年Aクラス | 保育士に必要な医学知識 | 宮川 三平 | |
| サブタイトル | | 単 位 数 | 2 |
| 授業形態 | 講義 | 出席要件 | 4 / 5以上 |
| 開講時期 | 前期 | | |
| 到 達 目 標 | | | |
| <p>保育士に必要な医学的知識について、基本的に理解できるようになることが、到達目標です。特に病児保育、病棟保育などの医療保育や医療的ケアについての医学的知識について理解できるようになり、必要となる保育技術を習得していただくことが、到達目標です。</p> | | | |
| ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連 | | | |
| <p>1. ディプロマポリシーとの関連：専門学校のディプロマポリシー「保育に関する基礎的な知識や保育技術を修得し、保育の場で応用して発揮することができる」に関連する。〈学びで得られる成果〉専門分野に関する知識・技術を体系的に学び、理論と実践を結びつけて主体的に課題を解決することができる。</p> <p>2. カリキュラムマップの位置づけ：保育者としての得意分野を広げる専門領域、「医療保育領域」の学びに関連する。</p> | | | |
| 授 業 の 方 法 | | | |
| <p>各回、前半の50分で、パワーポイントと資料を用いて、基本的知識を説明いたします。そして、後半の50分で、関連する保育技術をロールプレイングなどで、実践していただきます。</p> | | | |
| テキスト・教材・参考図書 | | | |
| <p>テキスト： ございません。</p> <p>参考書： 「医療保育セミナー」日本医療保育学会編 建帛社</p> | | | |
| 評 価 の 要 点 | | | 総合評価割合 |
| <p>期末レポートにて、評価いたします。</p> | | | <p>レポート 100%です。</p> |
| 履修上の注意事項や学習上の助言など | | | |
| <p>特にございません。</p> | | | |

| 授業回数別教育内容 | | 身につく資質・能力 |
|-----------|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 1回 | ガイダンス 2回から14回までの授業について説明します。 | 保育に必要な知識の概略が理解できるようになる。 |
| 2回 | 「子どもの病気を早く見つけるには」とバイタルサインについて説明します。 | 「子どもの病気を早く見つけるには」とバイタルサインが理解できるようになる。 |
| 3回 | 子どもの発熱について、説明します。 | 子どもの発熱について理解できるようになる。 |
| 4回 | 子どもの腹痛・嘔吐について、説明します。 | 子どもの腹痛・嘔吐について理解できるようになる。 |
| 5回 | 先天異常と周生期・新生児の異常について、説明いたします。 | 先天異常と周生期・新生児の異常について理解できるようになる。 |
| 6回 | 内分泌・代謝疾患について、説明いたします。 | 内分泌・代謝疾患について理解できるようになる。 |
| 7回 | 免疫不全・アレルギー疾患について、説明いたします。 | 免疫不全・アレルギー疾患について理解できるようになる。 |
| 8回 | 自己免疫疾患・感染症について、説明いたします。 | 自己免疫疾患・感染症について理解できるようになる。 |
| 9回 | 血液疾患・悪性腫瘍について、説明いたします。 | 血液疾患・悪性腫瘍について理解できるようになる。 |
| 10回 | 循環器疾患・消化器疾患について説明いたします。 | 循環器疾患・消化器疾患について理解できるようになる。 |
| 11回 | 腎泌尿器疾患・神経疾患について説明いたします。 | 腎泌尿器疾患・神経疾患について理解できるようになる。 |
| 12回 | 運動器疾患・神経発達症・精神疾患について説明いたします。 | 運動器疾患・神経発達症・精神疾患について理解できるようになる。 |
| 13回 | 1回から12回までの総復習と期末レポート作成 | 知識の整理ができるようになる。 |
| 14回 | 期末レポート作成と提出です。 | 知識の整理ができ、期末レポートが提出できるようになる。 |
| 試験 | 期末レポート提出です。 | |